

化学農薬に頼らないイチゴのIPM防除手法の開発と現地普及

イチゴに被害を与えるハダニやアブラムシなどは、化学農薬による防除効果が低下しているため、ミヤコバンカー等の天敵生物資材を活用したIPM防除（総合防除）の開発と普及に取り組んでいます。

【天敵生物資材“ミヤコバンカー”】

ハダニの天敵ミヤコカブリダニと天敵の棲家となるバンカーシートから構成され、バンカー内で増殖したカブリダニが、長期間、イチゴに放出され、ハダニを食べることで防除されます。



図1. ミヤコカブリダニとバンカーシート

●炭酸ガスくん蒸とミヤコバンカーを組み合わせたハダニ防除の開発
定植前に、ポット苗を炭酸ガスでくん蒸処理し、農薬の届きにくい場所にいるハダニを殺虫した上で定植後、ハウスサイドビニール閉め込み直前にあたる10月中下旬にミヤコバンカーを設置することで、長期間にわたりハダニの発生を防ぐことができました。



図2. 炭酸ガスくん蒸の様子

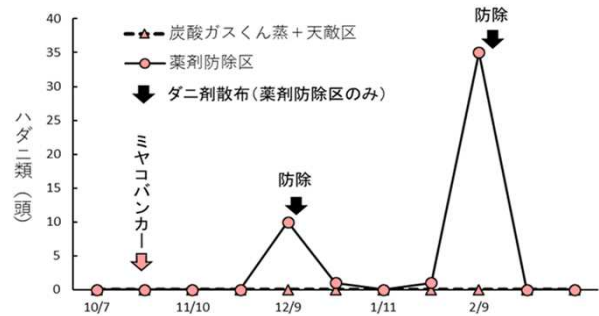


図3. ハダニ類の発生推移 (50株あたり)

●アブラバチバンカー法によるアブラムシ防除の普及促進
ハウス内で餌となる“イチゴに害のないアブラムシ”を着生させた麦（バンカー植物）を栽培し、天敵アブラバチを飼育することで、長期にわたりアブラムシの発生を防ぐ方法です。現地実証等から、ハウスサイドビニール閉め込み後の11月上中旬にアブラバチを放すと防除効果があることを確認し、令和3年から普及を開始しています。



図4. アブラムシを待ち伏せして攻撃する「アブラバチバンカー法」

IPM防除は最近の注目の手法で、部会内でも認知されてきています。炭酸ガスくん蒸処理効果を最大に得るため試行錯誤中です。次作はミヤコバンカーとの組み合わせによる防除効果の向上を期待しています。導入費用が高いため、どのように技術を広めるかが課題です。アブラバチバンカーは、高設栽培ベンチ上でバンカー麦（エン麦）を栽培したことで水やりの手間が省けました。ある程度の高さで麦を切っていけば、6月まで効果が維持でき、今シーズン、アブラムシの被害で悩まされることはありませんでした。

杵築いちご研究会 堀口 昌勝

【連絡先】
担当： 農業研究部 病害虫対策チーム
TEL： 0974-28-2078
住所： 豊後大野市三重町赤嶺 2328-8